



岳庄小学校での食堂寄贈セレモニー
(関連写真提供:プラン・ジャパン)

OKIグループの
CSRのかたち

特集

3

操業する国や地域の 持続的な成長に貢献

モノづくりで求められる マネジメントを整備

経済のグローバル化が進むにつれて、企業に対する要求は多様化し、自社の成長とともに、操業する国や地域の持続的な成長に貢献することが求められるようになってきました。

OKIグループは、生産活動を行っている国内およびタイ、中国、英国の各地で、OKIグループの強みである高度な生産技術のさらなる底上げと緻密な生産管理の浸透に努めるとともに、生産活動に伴う環境負荷の低減や、社員の労働安全衛生などに確実に取り組むべく、「OKIグループ企業行動憲章」にこれらの項目を掲げ、マネジメントを推進しています。

品質に関しては、全生産拠点で認証を取得済みであるISO9001で構築したマネジメント体制をベースに、事業部門およびグループ各社の品質保証部門が中心となって、生産ラインや製品特性にあわせた最適な品質管理体制を構築しています。さらに2011年度には、生産・製品安全統括室をコーポレートに新設し、生産リソースの最適な活用、生産課題の調整などをOKIグループ全体で行う体制を整えました。

環境に関しては、生産拠点を中心に39拠点を対象にISO14001の統合認証を取得済みで、ビジネステーマ(商品・サービスを通じた環境負荷低減活動)とサイトテーマ(拠点における環境負荷低減活動)のマネジメントを実践しています。また労働安全に関しては、拠点ごとに労使で構成される「労働安全衛生委員会」が日常的に管理しています。

こうした取り組みについては、サプライチェーンを通じたCSRの推進が叫ばれるなか、お客様からも求められるケースが増えていきます。OKIはグローバルなCSR調達の要求事項を反

映した調査フォーマットを作成して、グループ拠点へ適用することで、CSRに関連するマネジメントの強化にも努めています。

操業する地域とともに 歩む企業をめざして

OKIグループのグローバル経営は、海外生産を開始した当初から、操業している国や地域の発展に貢献することを一つの目標に掲げており、単なる経済的なメリットの追求ではなく、地域との信頼関係につながる運営を大切にしてきました。

たとえば、現地ベンダーや社員と一体となって生産技術の向上などに努めた結果、現地社員が主体となって生産改善が進められるなど、地域に根ざしたマネジメントが各地で展開されています。また現地の人材を育成することも企業の社会的責任の一つと捉え、IT教育や語学教育、認定取得などを推進しています。

こうした本業を通じた取り組みに加え、国内外の各拠点における地域住民とのコミュニケーションや社会貢献活動にも積極的に取り組んでおり、近年は中国の現地法人が地域のCSR優秀企業賞を受賞するなどの評価を受けています。

中国で小学校の食堂建設 プロジェクトを支援

OKIおよび中国の現地法人9社は2011年度、中国陝西省の岳庄(ユエズアン)村にある岳庄小学校の食堂建設プロジェ

クトを支援しました。これは、OKIグループが中国の成長とともに事業を拡大し、地域に根付いた企業となったことへの感謝を含め、OKI創業130周年記念事業の一環として実施したものです。

岳庄小学校は、1922年に設立された古い小学校です。近隣の7村に暮らす児童268名が在籍、そのうち213名が寄宿生活を送っていますが、正規の食堂や洗面所がなく、子どもたちはテント張りの仮設食堂で単調な食事をしていました。

プロジェクトは、公益財団法人プラン・ジャパン※の「プラン特別プロジェクト」を通じて行い、食堂と調理室、洗面所の新設による安全で衛生的な環境の整備とともに、栄養と健康に関するトレーニングなどを実施しました。児童、教師、自治体や地域の人々が企画、進捗管理などすべての段階で関わり、住民参加型で「自分たちの学校食堂」を作り上げたことで、プロジェクトの成果を自ら継続していく体制も整っています。衛生的な環境で調理された栄養価の高い食事が子どもたちの健康な身体づくりと学習効果の向上につながり、地域や国を担う人材に育ってくれることを願っています。

OKIグループは今後もさまざまな形で地域に貢献し、ともに発展できる企業をめざしていきます。

※ 公益財団法人プラン・ジャパン：世界67カ国で活動を展開する、国連に公認・登録された国際NGOプランの一員。

Stakeholder's VOICE

岳庄小学校の皆さんの声から

食堂のお陰で私たちの食事の時の問題が解決しました。今は、この明るくて広々とした食堂のなかで食事をすることができるので、冬の寒さや夏の暑さに悩まされることはありません。食堂には消毒器もあるので、安全な食べ物を食べることができます。

(小学5年生児童 シィさん)

食堂が建設されて、私たちの子どもの寄宿施設の状態は改善されました。現在、子どもたちは良い環境で、幸せに健やかに成長することができるので、私たちも安心して農作業に励むことができます。

(保護者 マ・ホンデンさん)



古い食堂(左)と新しい食堂内部

特別報告

災害時にも供給責任を果たすために

2011年3月11日に発生した東日本大震災に加え、2011年10月のタイの洪水により、企業の供給責任が改めて注目されています。

OKIグループでは東日本大震災により、福島市のOKIデータ福島事業所が生産を一部停止したものの、社員がいち早く復旧作業に取り組み、4月11日には生産を再開することができました。供給責任の重要性を再認識したのも束の間、10月にタイで洪水が発生。アユタヤ県でプリンタを生産しているOKIデータ・マニュファクチャリング(タイランド) (以下、ODMT)で工場への浸水被害が発生し、10月6日から約3カ月間操業を停止せざるを得ないほどの大きな影響が出ました。

この事態に、プリンタ事業を統括するOKIデータが即日、日本に洪水対策本部を設置。国内外の関連拠点すべてをTV会議システムで結び、状況確認と迅速な指示に努めるとともに、供給責任を果たすための代替生産計画を立案、10月10日にはその実行に着手しました。計画遂行のため、ビジネスパートナーの協力を得るとともに、代替生産を行う各工場においてラインの立ち上げと部材の確保に努め、さらにはODMTの作業に熟練したタイ人社員の多くが代替生産拠点に長期出張するなどの施策を実施。「世界のお客様が待っている!見せる生産の底力!」を合言葉に、一人ひとりが生産と製品供給に努めました。また被災したODMTでは浸水直後から設備の引き上げや新規手配を進め、水が引い



代替生産に向け、ODMTから部材を搬出

てからは1日も早い生産再開のため、清掃作業から生産準備まで社員一丸で取り組みました。こうした努力の結果、2012年1月4日には一部で操業を再開、さらに3月1日には当初の予定よりも早く全面操業を再開することができました。



復旧したODMTの生産ライン

今回の復旧にあたり、ODMTでは洪水対策を強化し、浸水時にもより迅速な復旧が可能となるよう、生産ラインの配置見直しなどを行いました。今後は、グローバルなバックアップ生産体制の強化など、さらなるBCP推進を図っていきます。